

「貫志」～最後の最後まで～

宇佐高 進路だより

No. 4 平成30年 7月24日 発行元：宇佐高等学校進路指導班



～ 夏休みに入る前に ～

前回は何のために勉強するのかについて考えてみました。今回は夏休みに入る前に意識して欲しいことについて話そうと思います。

「夏休みは短いのに、何ができるのか？」という声が聞こえてきそうですが、できることは沢山あります。意識の持ち方一つで差が生まれるのです。特に、3年生は高校生活最後の夏休みです。後悔しない生活をしてください。

☆ 部活動をしている生徒は暑い時期だから体調面には十分注意して取り組んで欲しいと思います。夏休み中は普段よりも長時間の練習が予想されます。こまめに水分補給等しながら練習してください。部活動と学習は共通点が多いと思います。この時期にどのような練習をしていけばこの後効果が出るのかを考えながらやっていく点や、失敗をしたときに、何がいけなかったのかを考えて次に進む点等です。また、一人では限界があるときに協力しながらやっていく点等もそうです。

部活動をしていると学習との両立に悩んだり、選手間の関係に悩んだりと様々な苦勞も生まれてくるものです。そうした場合、本人にとって非常に苦しい思いになると思いますが、その状況を何とか打開しようと思えるときに「成長」できるし、その成長が今後の財産になるのは間違いないでしょう。頑張ってください！

☆ 学習以外のことも積極的に取り組んでください。例えば、家の中の色々な手伝い、ボランティア活動、友人と何かに取り組む（茜祭関係等）、読書、長期間を有する趣味等々です。なぜこんなことをお願いするのかというと、現在の教育で最も重視されている『思考力・判断力・表現力』を培うのに適した環境がこういったものだからです。課題を発見してその課題を解決するために思考するという一連の行動がこういった環境の中から生まれやすいのです。是非とも様々なことから学ぶ姿勢を身に付けて欲しいと思います。

☆ 夏休み中の課題が配布されていると思います。しっかり取り組んでいますか？課題を出した先生は必ず目的を持ってその課題を出しています。夏休みにその課題をやることによって「この分野の力を強化したい」とか「全体的に基礎的な力をつけたい」などです。先のことを考えて、今その課題を出しているわけです。決して何気なくその課題を出しているわけではありません。

夏休み課題を見て、量が多く感じてなかなかやる気が起きず、やらされているような気持ちで取り組むのはやめましょう。これに取り組むことによってどのような力が

つくのかを想像しながら、積極的に取り組めば充実した夏休みになること間違いなしです。

☆ 夏休みの課題は夏休み中に行う最低限の学習です。本来学習というのは自分で考えて行うものです。「私はこの教科のこの分野が特に苦手だから夏休み中にこういう学習をしていこう」…①とか「今まで受けたテストの間違った部分の問題をもう一度解いてみる」…②とか「2学期に習う部分の予習を進めていく」…③等、やり方は様々あります。その際、モチベーションを維持するための方法として、例えば①の場合であれば8月の実力考査（3年は定着度テスト）、②の場合であれば11月進研模試、③の場合であれば9月の中間考査の得点をアップするという強い気持ちを持つというのはどうでしょうか。勿論、本当はこういった学習がもっと先の場面で役立つことはいくらでもありませんが、モチベーション維持のためには“目標を近くに設定しておく”方がよいと思います。

是非、自分独自の学習をして、しっかりとした力をつけて2学期を迎えてください。

☆ 6月上旬に第2回学習時間調査を実施しました。以下はその結果です。左の数字は4月下旬に実施した結果で、右側の数字が6月上旬に実施した結果です。

(単位は分で小数第1位を四捨五入)

〈学年別平日・休日学習時間〉

学年	1年	2年	3年
平日平均	144 → 148	128 → 128	152 → 169
休日平均	188 → 203	159 → 187	197 → 200

〈教科別平日学習時間〉

教科	国語	数学	英語	理科	地/公	その他
1年	31 → 37	79 → 72	54 → 55	14 → 13	2 → 8	5 → 5
2年	24 → 26	48 → 56	41 → 32	10 → 10	3 → 4	1 → 1
3年	27 → 28	45 → 44	51 → 52	18 → 24	8 → 16	3 → 5

〈教科別休日学習時間〉

教科	国語	数学	英語	理科	地/公	その他
1年	54 → 73	76 → 63	67 → 60	25 → 37	5 → 14	4 → 19
2年	34 → 51	50 → 52	38 → 53	21 → 17	15 → 11	2 → 3
3年	35 → 23	49 → 58	55 → 41	35 → 46	20 → 23	3 → 10

学習時間調査結果の数字も大切ですが、更に大切なのは、それぞれが目的を持って学習をするということです。受け身で学習すると効果は半減します。「何のためにこの学習をするのか」と常に心の中で考えて学習をしてください。

※裏面は入試改革に関わる資料（ベネッセ提供）です。ご覧ください。

変わる入試。
変わる指導。

< Benesse 提供 >

入試区分を問わず学力の3要素を評価!?

※本冊子では、発刊当時の名称を採用し、「一般選抜」を一般入試、「学校推薦型選抜」を推薦入試、「総合型選抜」をAO入試と記載しています。

多面的・総合的評価
入試拡大

への対応

変わる入試

社会が大きく変容するなか、一般入試、推薦・AO入試を問わず、生徒を多面的・総合的に評価する傾向が強まっています。

- ① 推薦・AO入試の拡大
- ② 一般入試でも様々な書類を活用して多面的・総合的に評価

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価するために
～JAPAN e-Portfolio～

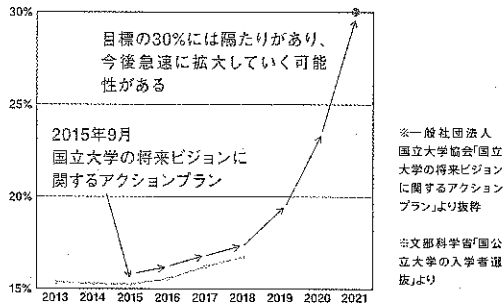
文部科学省の委託事業(代表大学:関西学院大学)では、大学がコンソーシアムを形成し、主体性等を評価する研究を進めています。高校生活の中で蓄積した「学びのデータ」を個別大学のインターネット出願システムへ連携、出願時に利用することができます。

① 推薦・AO入試の拡大

国立大学協会が出したアクションプランでは、推薦・AO入試等を入学定員の30%まで引き上げることを目標にしています。

すでに、これまで推薦・AO入試を実施していなかった大学でも推薦・AO入試が導入されており、拡大の兆しが見えます。

国立大における推薦・AO入試の募集人数の推移



例: 京都大 2016年度より特色入試を導入

提出書類例

教育学部特色入試 学びの報告書(生徒作成書類)

提出書類の記入方法について

以下の項目について、活動報告書(例)の記入欄を参考に記入してください。
(※必ずしもこの順序で記入する必要はありません)

【1】 中学時代から現在までに取り組んだ「学び」の活動(各教科での学習や総合的な学習の活動、読書、課外活動、学校行事での活動、ボランティア活動等)のうち、具体的な活動の経過を記述してください。

(1) 「時期」欄に活動を行った時期(高校での場合は、学年・学期)を記入してください。

(2) 「活動内容」欄に活動の具体的な内容を記入してください。その際、その活動がどのような成果を生み出したか、あるいは、どのような気づきを得たかを具体的に記入してください。

(3) 「資料添付」欄に活動に関する資料の添付を記入してください。

※提出した活動報告書の経過については、本誌を併せて【2】の欄に記載してください。

時期	活動内容	資料添付

中学時代から現在までに取り組んだ「学び」の活動のうち
主なものを時間の経過に沿って記述

提出書類の記入方法について

【2】 【1】に記述した活動の中で、大学での学びに向けて、重要なものと思われる活動(3つの活動)について、説明してください。

(1) 「活動内容」欄に、活動の具体的な内容を記入してください。

(2) 「資料添付」欄に活動に関する資料(1)～(3)を記入してください。関連する資料が添付されている場合は、

(3) 「資料添付」欄に、1冊の活動報告書、または、そのほかの資料を添付してください。

(4) 「気づき・感想」欄に、活動を通じての気づきや感想を記入してください。

活動内容	資料添付

活動内容	資料添付

取り組んだ具体的な内容や生み出した成果、
自分自身にとっての意義を記述

② 一般入試でも様々な書類を活用して多面的・総合的に評価

文部科学省は、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をより積極的に評価するため、調査書や志願者本人が記載する資料等の積極的な活用を促すとしています。また、調査書も改善され、生徒の特長に関してより具体的な記載が求められます。推薦・AO入試以外でも、多面的・総合的に評価にむけた対応は必要といえそうです。

改正案

項目	現行	改正案
1	各教科・科目及び総合的な学習の時間の学習における特徴等	+
2	行動の特徴、特技等	+
3	部活動、ボランティア活動等	+

「指導上参考となる諸事項」という欄に、6項目に分けて記載できるように変更。高校時代の諸活動について多様な具体的な内容を記載する形式に

調査書の様式について、裏表の両面1枚となっているが、この制限を撤廃し、弾力的に記載できるように変更

調査書の様式について、裏表の両面1枚となっているが、この制限を撤廃し、弾力的に記載できるように変更

大学が指定する特定の分野(例: 読書活動、芸術、体育、情報等)において、特に優れた学習成果を挙げたことを記載することができます。

これまで(現行)

- 1 各教科・科目及び総合的な学習の時間の学習における特徴等
- 2 行動の特徴、特技等
- 3 部活動、ボランティア活動等

これから(改正案)

- +
 - +
 - +
- 各教科・科目等に関する学習状況の様子や特徴(積極性)などを具体的に
- ①以外の学校内外における活動の状況や特徴(積極性)など
- 部活動やボランティア活動等の具体的な取り組み内容、実施期間、その活動における特徴等

具体的な内容や 生徒の特長について記載することが求められるように

これまでの対応

- 高校3年生になってからクラス担任の先生方が出願書類作成の準備を始める。
- 志望大学が決まってから、志望理由や高校で頑張ったことを振り返る。

これから求められる対応

- 高校1年生から生徒の様子を記録していき、その履歴を活用して調査書に記載する。
- 高校1年生から様々な活動を行い、履歴を蓄積する。活動履歴を振り返ることでさらに学びを深め、それを提出書類に反映させる。